

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム さくら		
所在地	山口県熊毛郡田布施町下田布施806		
電話番号	0820-51-0170	事業所番号	3577300449
法人名	医療法人社団 光仁会		

訪問調査日	平成 21 年 5 月 11 日	評価確定日	平成 21 年 7 月 9 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	14 人	常勤 10 人 非常勤 4 人 (常勤換算 13.8 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造(S造)		造り	
	3 階建ての	2	~	3 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額	40,000 円	敷金	無	円
保証金	有	200,000 円	償却の有無	有	2年
食費	朝食	400 円	昼食	600 円	
	夕食	500 円	おやつ	0 円	
その他の費用	月額	15,000 円			
	内訳	光熱水費			

(4) 利用者の概要 (5月11日現在)

利用者数	18 名	男性	2 名	女性	16 名	
	要介護 1	1	要介護 4	4		
	要介護 2	4	要介護 5	3		
	要介護 3	6	要支援 2	0		
年齢	平均	86.1 歳	最低	75 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 市川医院 歯科 藤井歯科医院
-------------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

ホーム一丸となって前向きに取り組んでおられ、運営者は頻りにホームを訪れ、利用者とは過ごしながらか信頼関係を深めており、施設長・管理者は介護相談や利用希望者に対して同伴訪問し、事業所としての支援の提案をするなど、安心してサービスが受けられるよう配慮されています。職員のレベルアップや働きやすい職場環境づくりにも配慮し、開設以来職員の異動はほとんど無く、職員の定着が進んでいます。現在育児休暇中の職員が利用者に忘れられないようにと、赤ちゃんをつれてホームを訪れたりしています。

(特徴的な取組等)

自然環境や立地条件にも恵まれ、桜並木の散策、地域交流館での買い物等戸外活動が行なわれ、社会参加や地域交流の場に繋がっています。医療用PHS(携帯電話)により常に運営者である医師、医院との間にオンラインシステムが確立されており、職員全員の救命救急資格研修受講など、救急時の備えがされています。メイン料理は法人の厨房で調理し、ホームではご飯と汁物を作り、盛り付けや配膳を行なっておられます。利用者と一緒に食事を準備にはゆとりが感じられ、和やかで穏やかなきめ細かい対応がされています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回の評価結果についてミーティングを行い、介護記録の改善など、サービスや業務の改善に取り組んでおられます。PHSによる医療連携により夜間救急に対応しておられますが、ユニットごとに夜勤者一名の配置については検討が課題となっており、育児休暇明けの職員の復職を待つて取り組む予定です。

(今回の自己評価の取組状況)

職員会議で話し合い、意見交換をしながら評価を行い、最後に管理者が取りまとめられました。評価項目は職員で共有し、評価結果についても職員全員で共通理解しておられます。

(運営推進会議の取組状況)

利用者、家族、自治会班長、副班長、地域包括支援センター、町担当課職員等5名程度で2ヶ月に一回、日曜日を利用して開催しています。災害時の地域連携や防火訓練などを含め活発に意見交換が行われています。

(家族との連携状況)

毎月、個別に金銭管理状況や健康状態、暮らしぶりを報告しており、2ヵ月に一回は写真をふんだんに使ったホーム便りを作成し、ホームでの暮らしぶりや行事を知らせておられます。家族会もあり、年2回の交流会や家族や地域の方々が参加する行事でなじみの関係をつくり、苦情や相談に対しても真摯に対応しておられます。

(地域との連携状況)

広報や行事等が閲覧されるので地域の様子は理解しておられ、清掃作業には職員も参加し地域と交流されています。利用者も地域の祭りの参加や地域交流館での買い物や交流、散歩時の声かけなど、地域の中で暮らしている様子が伝わってきます。家族や地域住民が参加するホームの夏祭りでは、多くの人が参加され、地域とのふれあいの場となっています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
．理念に基づく運営 1．理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「地域の人たちとのふれあいの中で、家庭的な雰囲気共同生活を営み、助け合いながらも利用者一人ひとりの意思に合わせて穏やかで楽しい暮らしをして戴きたい、という思いを事業所独自の理念としている。	
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	スタッフルームやホーム内に掲示すると共に、スタッフ会議で確認しあい、理念の実践に向けた取り組みが行なわれているか話し合っている。	
2．地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	広報や行事等の回覧により、地域の様子は理解しており、清掃作業には職員が参加し、地域との交流が行なわれ、利用者もさくら祭などの地域の祭りへの参加や地域交流館での買い物、散歩時の声かけなど、地域と交流している。	
3．理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	運営者、管理者、職員共に自己評価及び外部評価の意義を理解し、評価に対してミーティングで話し合い具体的な改善に取り組んでいる。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	家族、利用者、自治会班長、副班長、地域包括支援センター、町担当課、管理者、職員のメンバーで2ヶ月に1回、日曜日に実施している。状況報告やサービスや行事についての話し合いを行い、会議での意見はサービスに活かしている。	
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議以外にも、担当課へ出向き、サービスの確認や報告、懸案事項の相談など行い、町と一緒にサービスの質の向上に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理状況を個別に報告しており、2ヵ月に1回は写真をふんだんに使ったホーム便りを送付し、ホームでの暮らしを紹介している。面会時にも報告や相談、話し合いが行なわれ、必要時は電話連絡をしている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	玄関に相談や苦情受け付け窓口を設置し、担当職員や第三者委員、外部機関を明示しており、苦情処理の手続きも明確に定めている。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務時間のシフト制により、必要な時間帯に必要な職員を確保しており、行事などはその都度柔軟に対応している。職員の急な休みは無いが、有った時は休みの職員で話し合いによる調整を行なう。夜勤は2ユニット1人体制、各ユニットに夜勤者を配置する必要性は熟知しており、実現に向け取り組んでいる。	・各ユニットに夜勤者の配置の検討
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	運営者は職員の人間関係を大切に、待遇面も含め離職を抑える努力をし、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。産休、育児休暇中の職員も時々子供をつれて顔を見せ、馴染みの関係を維持している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内で年間の研修計画を作成し、計画的に研修を実施している。外部研修も業務の一環として受講し、受講した研修については職員で共通理解するよう伝達講習が行なわれる。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入している。勉強会や交流会に参加し、相談や話しやすい関係を作りながら、ネットワークづくりやサービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	施設長と管理者は入居前に利用者の自宅を訪問し、情報収集や顔なじみの関係を作り不安の除去に努めている。本人や家族から暮らし方についての希望を聞くと共に生活歴などを把握し混乱しないよう配慮している。	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	利用者との語らいを大切に、ゆっくり話を聞きながら、調理や配膳、後片付け、洗濯物たたみなどの家事を共に行ない、共に暮らす中で本人から学んだり、お互いに支えあう関係を築いている。	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	本人の話をゆっくりと聞きながら、希望や意向を把握すると共に、日々の関わりや表情、行動などからも、本人の思いや意向を把握している。	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	本人、家族、主治医など関係者とも話し合いながら、月一回のケア会議を行い本人本位の介護計画を作成している。	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	3ヶ月毎にモニタリングを行い介護計画の見直しをしているが、状況に変化が生じた時は施設長や管理者、主治医、家族等関係者の話も聞き、現状に即した新たな計画を作成している。	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	利用者の要望に応じ、自宅の見廻り、理美容院の利用、行事への参加、医療受診などの移送サービスを行なっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族の希望をもとに主治医を決めているが、現在利用者全員、協力医が主治医となっている。定期的又緊急時の訪問診療が確保されており、医療用PHS(携帯電話)による365日24時間の医療支援体制が確立している。他科受診は協力医の紹介状によりホームが受診の支援をしている。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	運営者である医師は頻繁にホームを訪れ、利用者との人間関係を深めると共に健康状態や思いを把握しており、終末期のあり方についても家族と話し合い、家族の意見や本人の思いを中心に最善の方法を検討し、関係者全員で方針を共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	一人ひとりの誇りを大切に、プライバシーに配慮した言葉かけや対応をしている。記録等個人情報の管理も適切である。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切に、職員のペースで暮らしが行なわれないよう配慮しながら、本人の希望に添った支援をしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メイン料理は法人内の厨房で調理しているが、ご飯や汁物、その他必要に応じホームで利用者と職員で調理し、盛り付けや配膳、後片付けなどを行なっている。食事準備、食事中、食事後の後片付けも和やかで食を楽しんでいる様子が伺える。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日、入浴する事が出来る。午後の時間帯を入浴に当てているが、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援をしている。利用者の状況に応じて併設のデイサービスの特浴を利用し、安全安心な入浴支援をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの生活歴や力量に配慮しながら活躍出来る場づくりを行ない、ホーム内の家事や調理、ちぎり絵等の趣味活動、散歩などを支援している。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	桜並木の続く土手に面した豊かな自然の中にあり、図書館や地域交流館、スーパーも近く、生活環境に恵まれており、日常的に散歩や買物に行き、理美容院の利用やドライブ等の外出支援を行なっている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	スピーチロックも含め、身体拘束について職員は正しく理解しており、抑制や拘束のない支援にとりくんでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	運営者及び職員は施錠の弊害について理解しており、日中は施錠していない。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止マニュアルを作成している。法人内の研修会で共通理解すると共に、ヒヤリはっと報告書を検証をし、ケアプランに組み込むなど、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	利用者の急変や事故発生に備えて、職員全員が救急救命資格研修を受講し、年2回マニュアルに添った訓練を行っている。	
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	利用者と共に夜間を想定した避難訓練を定期的実施している。運営推進会議や地域の方々との関わりの中で、災害時の地域の対応や協力依頼を行なっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	利用者一人ひとりの薬について職員は理解しており、薬は必ず手渡し服薬を確認している。必要な情報は医師、薬剤師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後一人ひとりに口腔ケアの支援をしている。歯ぶらしや義歯の清掃、保管についても支援をしている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量は把握しており、栄養バランスについては法人の栄養士の指導や助言を得ている。嚥下や食事摂取等状態に応じた支援をしている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症マニュアルを作成し、実行している。インフルエンザ予防接種は職員、利用者全員接種している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用の生活空間に不快な音や光は無く、緑豊かな桜並木や行きかう人達が見渡せ、壁面や居間食堂も家庭的で明るい。居間には小上がりの畳の間もあり、洗濯物の取り込みや洗濯物たたみが行われる。食堂に対面する厨房からは炊事の様子や調理の匂いが感じられ、季節感と共に生活感も感じられる。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベットや机、テレビ、整理用タンスなど使い慣れた物が持ち込まれ、利用者が自分の居室として安心して暮らせるよう配慮している。壁面には家族の写真や本人の作品が飾られ、その人らしさのある居室となっている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホームさくら
所在地	山口県熊毛郡田布施町大字下田布施806
電話番号	(0820) 51-0170
開設年月日	平成 15 年 3 月 1 日

【サービスの特徴】

近くに大型スーパーや公共施設があり、便利な立地条件。歩いて買い物ができる、一般家庭と同じ生活の場。最寄の駅より徒歩10分。1階にデイサービスがあり、利用者との交流やリハビリを活用できる。

【実施ユニットの概要】 (4月1日現在)

ユニットの名称	さくら2階			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名	
	要介護1	1	要介護4	2
	要介護2	1	要介護5	3
	要介護3	2	要支援2	
年齢構成	平均 86.2 歳	最低 75 歳	最高 97 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	職員と意見を出し合い相談する。
評価確定日	平成 21 年 4 月 24 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1 (1)	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	スタッフと話し合いのうえ、作っている。	○	掲示している。
2 (2)	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	取り組んでいる。施設内やスタッフルームに掲示をして共有し、スタッフ会議の際にきちんと実践できているか見直している。		
3	○ 運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	示している。掲示をし、職員会議の時に話し合ってる。		
4	○ 運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	取り組んでいる。各種研修に参加している。		
5	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	取り組んでいる。家族会を開催したり、自治会に参加したりしている。		
2. 地域との支えあい				
6	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ったりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。	努めている。挨拶の励行や会話の成立をしたりしている。		
7 (3)	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	努めている。祭りなどの自治会の行事に参加している。	○	さくら祭りに参加した。
8	○ 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	相談業務を行っている。	○	民生委員の自宅を訪問して相談を受けている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	○ <u>評価の意義の理解と活用</u> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	スタッフと相談し、取り組んでいる。	
10 (5)	○ <u>運営推進会議を活かした取り組み</u> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	活かしている。	○ サービス内容については意見が出てきていない
11 (6)	○ <u>市町との連携</u> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	行き来の機会はある。	○ 連絡を取り合い、相談をしながら、協力し取り組んでいる。
12	○ <u>権利擁護に関する制度の理解と活用</u> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	必要な人には、利用できるように事業所を紹介している。	○ 制度について知っているものが少ない為、学ぶ機会を持ちたい。
13	○ <u>虐待の防止の徹底</u> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止関連法について、研修を行っている。	○ 今後も新入職員を含めて研修していくようにする。
4. 理念を実践するための体制			
14	○ <u>契約に関する説明と納得</u> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	必ず事前に十分な説明を行い、納得してもらっている。	
15	○ <u>運営に関する利用者意見の反映</u> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情相談箱を設置している。入居者との日頃の会話の中でも耳を傾ける。	○ スタッフと相談し、苦情や不満が解決できるように努める。出来ない事はきちんと伝える。
16 (7)	○ <u>家族等への報告</u> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月発送する請求書に手紙(暮らしぶり等)や預かり金明細書を、また2ヶ月に1度苑便りを同封する。面会時には必ず話をする。	○ 職員の異動に関しては既に実施している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	<p><u>○情報開示要求への対応</u> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。</p>		
18 (8)	<p><u>○運営に関する家族等意見の反映</u> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。</p>	○	施設側のスタッフが居ない時間帯を家族会の場に設けたい。
19	<p><u>○運営に関する職員意見の反映</u> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>		
20 (9)	<p><u>○柔軟な対応に向けた勤務調整</u> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>		
21 (10)	<p><u>○職員の異動等による影響への配慮</u> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	<p><u>○職員を育てる取り組み</u> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
23	<p><u>○職員配置への取り組み</u> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。</p>		
24 (12)	<p><u>○同業者との交流を通じた向上</u> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	○	ブロック会開催の懇親会に参加している。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	仕事をしていく上で困っていることや愚痴について食事会などの機会を持ち、相談する場を作る。		
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	資格取得の機会を与えている。意欲のある者は積極的に研修への参加もさせている。		
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	必ず事前に自宅に行き、面談を行い、本人と会話し、本人の思いを聞いている。	○	情報を早めに収集し、スタッフに予備知識を与える。
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	必ず事前に訪問を行い、利用までの経緯について聞いている。	○	会って話をするだけでなく、電話等も活用する。
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	他のサービスの内容についても説明を行い、本人や家族に選択してもらっている。	○	他のサービスについてのパンフレットも持参する。
31 (13)	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	必ず家族に施設に来てもらい、暮らしぶりを見てもらっている。		家族だけでなく、出来るだけ本人にも来てもらえる様にする。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	生活暦を必ず把握し、本人の話もゆっくり聞くようにしている。	○	重症の入居者にも絶えず話しかけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	〇本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	〇	手紙の回数を増やして生きたい。近くに住んでいる家族には面会の回数を増やしてもらおう。
34	〇本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	〇	手紙や電話で知らせている。
35	〇馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	〇	地元だけでなく、周辺の市や町にもドライブに行く。
36	〇利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	〇関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	〇	手紙を出したり電話をかけたりにしている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	〇	入所する前のその方が生活している様子を必ず見に行っている。
40	〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	○ チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人の希望、家族の希望、主治医の意見を聞き、作成している。	
42 (17)	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に見直し、状態変化に応じて随時見直している。	
43	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の介護記録に特記事項として記入している。	○ 今までに無い事は印をつけたり、朱記で記したりしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療連携を活かしている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの参加がある。	
46	○ 事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	認知症についての理解や関わり方について相談業務を行う。	
47	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		
49 (19)	<p>○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	○	本人の様子を主治医に文書にて報告している。また、協力病院より紹介状をもらっている。
50	<p>○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
51	<p>○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
52	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53 (20)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
54	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		
55	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
56 (21)	○ <u>プライバシーの確保の徹底</u> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。		
57	○ <u>利用者の希望の表出や自己決定の支援</u> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	○	本人の意思だけを聞くのではなく、家族の思いも組み込むようにしたい。
58	○ <u>“できる力”を大切にされた家事への支援</u> 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。		
59 (22)	○ <u>日々のその人らしい暮らし</u> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○ <u>身だしなみやおしゃれの支援</u> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	移動の困難な人でも、なるべく外の理美容院に行っている。
61 (23)	○ <u>食事を楽しむことのできる支援</u> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。		
62	○ <u>本人の嗜好の支援</u> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	○	出来ない人には、本人の嗜好(コーヒーが嫌い等)を把握している上で、提供している。
63	○ <u>気持ちのよい排泄の支援</u> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64 (24)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	支援できる人には支援している。安全・安楽に入浴できるように特浴を活用している方もいる。		
65	○安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	日中の活動を促し、夜間熟睡できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事を手伝ってもらったり、散歩に出たりしている。	○	1人1人に合った支援を行っている。
67	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物に行った時には本人に支払いをしてもらう。	○	買い物の回数を増やしたい。
68 (26)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気のいい日には、たとえ近くでも戸外へ出られるように支援している。		
69	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年間行事の中に施設外への外出も予定しており、出来るだけ参加し、外出できるように支援をしている。	○	車椅子であっても、職員の配置をあつくして(回数は少ないが)外出を行っている。
70	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	支援できる人には支援している。	○	出来ない人にも少しずつ支援していききたい。
71	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	自室にコーヒー・お茶を持って行き、ゆっくり過ごしていただく。		
72	○家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	希望があれば宿泊していただいている。食事・寝具の提供も希望があれば行う。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	○	2ヶ月に1度のさくらだよりも記載している。
(4) 安心と安全を支える支援			
74 (27)	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		
75 (28)	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		日中は鍵をかけない。夜間はセコム・電子錠を使用。(家族には了解済み)
76	○ 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		定期的巡回し、人数の把握に努めている。
77	○ 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		観察をし、その人の状態に合わせて取り組んでいる。
78 (29)	○ 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	○	夜間の転倒防止の為に布団に鈴をつける。食事の形態を変える。人数の確認をする。
79 (30)	○ 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	○	訓練の回数を増やす。
80	○ 再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		発生時には必ず報告書を書く。再発防止の為の話し合いをスタッフ間で行う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	○	地域の人にも参加してもらえただけのように呼びかけている。
82	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	<p>○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	○	連絡ノート・白版ボードの活用
84 (32)	<p>○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。</p>		
85	<p>○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>		
86 (33)	<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。</p>	○	自力で行える人への確認をきちんとしたい。
87 (34)	<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
88 (35)	<p>○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。</p>		流行する兆しがある場合には、張り紙・手紙等で知らせて注意していただく。又、スタッフもマスクをするなど対応する。
89	<p>○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
90	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	訪問しやすい構造になっている。	
91 (36)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	季節の花を飾ったり、掲示板を利用して写真を飾っている。 (ひな飾り、七夕飾り、クリスマスツリー)	○ 利用者の作品も掲示している。
92	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	椅子をフロア内色々な箇所に置いている。畳のスペースもある。	
93 (37)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベッドやダンスなどの家具を今まで使っていたものを持ってきてもらっている。	
94	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	窓を定期的に関開け、空気の入替えを実施。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	手すりをつけている。段差は無い。	○ トイレに行けない人に対してP-トイレを設置
96	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	本人のレベルに合わせ工夫する。	○ 自室・トイレの目印・張り紙などの表示をする。
97	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダにはプランターを置き、花や野菜を作っている。	

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
V. サービスの成果に関する項目	
98 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
99 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="radio"/> ①毎日ある <input checked="" type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ④ほとんどない
100 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
101 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
102 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
103 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
104 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
105 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等と <input checked="" type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
106 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ④ほとんどない
107 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ④全くいない
108 職員は、生き活きと働いている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
109 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
110 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホームさくら
所在地	山口県熊毛郡田布施町大字下田布施806
電話番号	(0820) 51-0170
開設年月日	平成 15 年 3 月 1 日

【サービスの特徴】

近くに大型スーパーや公共施設があり、便利な立地条件。歩いて買い物ができる一般家庭と同じ生活の場。最寄の駅より徒歩10分。1階にデイサービスがあり利用者との交流やリハビリを活用できる。

【実施ユニットの概要】 (4月1日現在)

ユニットの名称	さくら3階			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名	
	要介護1	1	要介護4	2
	要介護2	3	要介護5	
	要介護3	3	要支援2	
年齢構成	平均 86.1 歳	最低 77 歳	最高 95 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	職員と意見を出し合い相談する。
評価確定日	平成 21 年 4 月 24 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 (1)	○ <u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	スタッフと話し合いのうえ作っている。	○ 掲示している。
2 (2)	○ <u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	施設内やスタッフルームに掲示をして共有し、スタッフ会議の際にきちんと実践できているか話し合っている。	
3	○ <u>運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	示している。職員会議の時に話し合っている。	
4	○ <u>運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	取り組んでいる。各種研修に参加している。	
5	○ <u>家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	取り組んでいる。家族会を開催したり自治会に参加している。	
2. 地域との支えあい			
6	○ <u>隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。	努めている。挨拶の励行、会話の成立をしたりしている。	
7 (3)	○ <u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	努めている。祭りなどの自治会の行事に参加している。	○ さくら祭りに参加した。
8	○ <u>事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	相談業務を行っている。	○ 民生委員の自宅を訪問して相談を受けている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	スタッフと相談し、取り組んでいる。	
10 (5)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	活かしている。	○ サービス内容についての意見が出てきていない。
11 (6)	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	行き来する機会はある。	○ 連絡を取り合い、相談をしながら、協力し取り組んでいる。
12	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	必要な人は利用できるように事業所を紹介している。	○ 制度について知っている者が少ないので、学ぶ機会を持ちたい。
13	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止法について研修を行っている。	○ 今後も新入職員を含めて研修していくようにする。
4. 理念を実践するための体制			
14	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	必ず事前に十分な説明を行い納得してもらっている。	
15	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情・相談箱を設置している。利用者との日頃の会話の中でも耳を傾ける。	○ スタッフと相談し、苦情や不満が解決できるように努める。出来ない事はきちんと伝える。
16 (7)	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月発送する請求書に手紙(暮らしぶり等)や預かり金明細・苑だより(2ヶ月に1回)を同封する。また、面会時には必ず話をする。	○ 職員の異動に関して既に実施している。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○ <u>情報開示要求への対応</u> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	いつでも閲覧できるように設置している。		
18 (8)	○ <u>運営に関する家族等意見の反映</u> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	契約書に明記し、契約時に説明している。苦情窓口については、掲示している。(国保連合会、町役場、施設担当者、第三者委員等)家族会でも苦情を聞く機会を作っている。	○	施設側のスタッフが居ない時間帯を家族会の場に設けたい。
19	○ <u>運営に関する職員意見の反映</u> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議を実施し話し合っている。		
20 (9)	○ <u>柔軟な対応に向けた勤務調整</u> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	必要に応じて調整している。		
21 (10)	○ <u>職員の異動等による影響への配慮</u> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	当グループホームでは職員の入れ替わりは少ない。		
5. 人材の育成と支援				
22 (11)	○ <u>職員を育てる取り組み</u> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内で定期的に研修の機会を持つ。また外部の研修にも計画的に参加する。		
23	○ <u>職員配置への取り組み</u> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	20代から60代の職員を配置。		
24 (12)	○ <u>同業者との交流を通じた向上</u> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム協議会に加入し、交流している。	○	ブロック会主催の懇親会に参加している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	仕事をしていく上で困っている事や愚痴について、食事会などの機会を持ち、相談する場を作る。	
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	資格を取得する機会を与える。意欲のあるものには積極的に研修への参加をさせている。	
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	努めている。	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	必ず事前に自宅に行き、面談を行って、本人と会話し、本人の思いを聞いている。	○ 情報を早めに収集し、スタッフに予備知識を与える。
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	必ず事前に訪問を行い、利用までの経緯について聞いている。	○ 会って話をするだけでなく、電話等も活用する。
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	他のサービスの内容についても説明を行い、本人や家族に選択してもらっている。	○ 他のサービスについてのパンフレットも持参している。
31 (13)	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	必ず家族に施設に来てもらい、暮らしぶりを見てもらっている。	○ 家族だけでなく、できるだけ本人に来てもらえる様にしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	生活暦を必ず把握し、本人の話もゆっくり聞くようにしている。	○ 重症の入居者にも絶えず話しかけている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	手紙の回数を増やしていきたい。近くに住んでいる家族には面会の回数を増やしてもらう。
34	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	○	手紙や電話で知らせている。
35	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	○	地元だけでなく、周辺の市や町にもドライブに行く。
36	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	○	手紙を出したり、電話をかけたりしている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	○	入所する前にはその方の生活している所を必ず見に行っている。
40	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	○ チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人の希望・家族の希望・主治医の意見を聞き、作成している。	
42 (17)	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に見直し、状態変化に応じて随時見直しをしている。	
43	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の介護記録に特記事項として記入している。	○ 今までに無い事は印をつけたり朱記で記したりしている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療連携を活かしている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの参加がある。	
46	○ 事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	認知症の理解や・関わり方について相談業務を行う。	
47	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>○<u>地域包括支援センターとの協働</u> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		
49 (19)	<p>○<u>かかりつけ医の受診支援</u> 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	○	<p>本人の様子を主治医に文書で報告している。また、協力病院より紹介状をもらっている。</p>
50	<p>○<u>認知症の専門医等の受診支援</u> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
51	<p>○<u>看護職との協働</u> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
52	<p>○<u>早期退院に向けた医療機関との協働</u> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53 (20)	<p>○<u>重度化や終末期に向けた方針の共有</u> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
54	<p>○<u>重度化や終末期に向けたチームでの支援</u> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		
55	<p>○<u>住み替え時の協働によるダメージの防止</u> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>当施設での生活の様子について家族に知らせている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
56 (21)	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	入居者一人一人の性格や人柄を把握したうえで行っている。個人情報はず必ずファイルしている。	
57	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	例えば散歩等を実施する時には必ず本人の了解を得て行っている。	<input type="radio"/> 本人の意思だけを聞くのではなく、家族の思いも組み込むようにしたい。
58	○“できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	本人の能力に合わせて行っている。	
59 (22)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。	出来るだけ本人のペースに添って支援している。(ゆっくりの人にはゆっくりと)	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	化粧品などは、本人の希望するものを購入する。なじみの美容院に行っている。	<input type="radio"/> 移動が困難な人でもなるべく外の理美容院に行っている。
61 (23)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	テーブル拭き、下ごしらえ、配膳の準備、下膳、洗い物を本人の能力に応じて実施してもらう。	
62	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	メニュー表を作成し、本人に選んでもらっている。	
63	○気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	本人の排泄パターンを知り、定期的に声掛けをし、実施している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	時間帯は決めているが、なるべく本人の希望に応じて入浴を支援している。		
65	○安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	日中の活動を促し、夜間熟睡できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ちぎり絵・散歩・食器洗い・家庭菜園・水撒き等を実施。	○	一人一人に合った支援をしている。
67	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物に行った時には出来る限り本人に支払いをしよう。	○	買い物の回数を増やしたい。
68 (26)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日などはなるべく戸外に出るように支援している。		
69	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年間行事に苑外に出る計画を盛り込んでいる。	○	観劇・いちご狩り・普賢祭り・天神祭り・あじさい祭り等に参加
70	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状・電話等の支援を実施。		
71	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	自室にコーヒー・お茶をもって行きゆっくり過ごしていただく。		
72	○家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	希望があれば宿泊していただいている。食事・寝具の提供も希望があればしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	年間行事計画を家族に渡している。また事前に電話や手紙で参加を呼びかけている。	○	2ヶ月に1度のさくらだよりもに掲載している。
(4)安心と安全を支える支援				
74 (27)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	法人内の研修で正しく理解している。		
75 (28)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけない。夜間のみセコム・電子錠を使用(家族には了解済み)		
76	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	定期的な巡回、人数の把握に努めている。		
77	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	観察し、その人の状態に合わせて取り組んでいる。		
78 (29)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人一人の状態に応じた事故防止に努めている。	○	定期的な巡回の実施と人数の把握
79 (30)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルにのっとり訓練をしている。	○	訓練の回数を増やす。
80	○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	発生時には必ず報告書を書く。再発防止の話し合いをスタッフ間で行う。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に避難訓練を実施している。緊急時の協力の依頼を近所の方をお願いしている。	○	地域の人にも参加してもらえるように呼びかけている。
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	スタッフと家族に話し、了解を得て支援している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	変化があれば必ず記録し、印や朱記をし、申し送りをし共有している。また、主治医や看護師にも報告し指示をあおいでいる。	○	連絡ノートの活用。白版ボードの活用
84 (32)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬剤リストの作成、主治医に報告している。		
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	朝、牛乳を飲んでもらい、メニューにも野菜を多く使用している。		
86 (33)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後のうがいの実施や毎食後の歯みがきを実施。	○	自力で行っている人の確認をきちんとしたい。
87 (34)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の食事量・水分量を記録している。水分補給には充分気をつけている。		
88 (35)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成している。	○	流行する兆しがある場合には、張り紙・手紙等で知らせて注意していただく。又、スタッフもマスクをするなど対応する。
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	衛生管理の為、チェックリストを作成し管理している。当日に購入したものはできるだけ当日に消費する。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
90	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	訪問しやすい構造になっている。	
91 (36)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	お花を置いたり、絵画を飾ったり、掲示板等を利用して、利用者の作品等を飾っている。また季節感が味わえる取り組みをしている。(雛壇・七夕飾りなど)	○ 今までの写真を掲示している。
92	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	たたみのスペース、談話コーナーを設けている。	
93 (37)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベッド、タンスなどは今まで使っていたものを持ってきてもらっている。	
94	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	窓を定期的にかけて、空気の入替えを実施。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	手すりをつけている。段差が無い。	
96	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	本人のレベルに合わせて工夫している。	○ 自室・トイレの目印・張り紙などの表示をする。
97	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ベランダにはプランターを置き花や野菜を作っている。	

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
V. サービスの成果に関する項目	
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 <input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 <input checked="" type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input checked="" type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 <input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 <input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 <input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 <input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 <input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 <input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input checked="" type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 <input checked="" type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 <input type="radio"/> ①大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている <input checked="" type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
108	職員は、生き活きと働いている。 <input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 <input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 <input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない